

慢性痛
急性痛

藤井洋泉先生の今月のカルテ

vol.96

ペインクリニックの現場から

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香宮我部義則先生と藤井洋泉先生が、痛みの治療や緩和についての情報を届けてくれるこのコラム。今回から2回にわたり、藤井先生が、帯状疱疹(ほっしん)による痛み(急性帯状疱疹痛と帯状疱疹後神経痛)について話をしてくれま



■プロフィール ふじい・ひろみ 平成2年岡山大学医学部卒業後、同大学医学部麻酔科蘇生科入局、岡山労災病院麻酔科、岡山大学医学部附属病院麻酔科蘇生科などを経て平成19年から現職。日本麻酔学会指導医。日本ペインクリニック学会認定医。現在、国際疼痛学会、日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会などに所属

帯状疱疹は、水痘(すいとう)・帯状疱疹ウイルスによって引き起こされます。ウイルスの名前に入っているように、このウイルスの初回感染で起きるのが、水痘(水ぼうそう)です。その後、ウイルスは潜伏していき、神経に沿って動いたため、神経支配に一致して症状が出るのですが、皮疹(ひしん)の前に痛みが出現することが多く、痛みのため整形外科を受診する人もいます。痛みが出現して数日後に皮疹、水泡が出現し帯状疱疹と確定診断されます。帯状疱疹は一生で約20%の人が発症します。

急性帯状疱疹痛には、非ステロイド性抗炎症薬がよく処方されますが、効果が少ないことも多く、難治する症例も見られます。最近ではジンジン、ピリピリするような痛みや、服が当たると痛みが出るような神経過敏な症例には、神経障害性

から投与します。一昨年から国内でも使用可能になったプレカパリンという薬が有効性も高く、よく使用されています。神経ブロックは、痛そうだし、怖いのでし

ます。内服可能な量は人により違うので、眠気、ふらつき等の副作用が出ないように少量から開始し、徐々に増量します。急性帯状疱疹痛は、早期から痛みを軽減させることが重要です。水泡などの皮膚症状が治癒した後も痛みが続いている時は、我慢せず主治医に相談してください。

急性帯状疱疹痛は、早期から痛みを軽減させることが重要です。水泡などの皮膚症状が治癒した後も痛みが続いている時は、我慢せず主治医に相談してください。今回は、帯状疱疹発症後、3カ月以上経過して痛みが続いている帯状疱疹後神経痛についてお話しします。

急性帯状疱疹痛は、発症後3カ月までの痛みで、以前は一般的な炎症性などによる痛み(侵害受容性とう痛)とされていたが、最近では神経の障害による痛み(神経障害性とう痛)も急性期から混在していることがわかりました。急性帯状疱疹痛には、非ステロイド性抗炎症薬がよく処方されますが、効果が少ないことも多く、難治する症例も見られます。最近ではジンジン、ピリピリするような痛みや、服が当たると痛みが出るような神経過敏な症例には、神経障害性

急性帯状疱疹痛は、早期から痛みを軽減させることが重要
さまざま薬ができて、内服薬だけで痛み軽減が可能に

お答えは、梶木病院(北区西花尻)の藤井先生です。☎086(293)3355